

2 環境にやさしい農業推進プロジェクト

信州の環境にやさしい農産物認証制度への取組を「点」から「面」へ拡大するため、環境にやさしい農業技術を実証・普及するとともに、農産物の販売促進に取り組み、「信州の環境にやさしい農産物」の生産拡大を図ります。

【数値目標】

項目	平成 22 年度	平成 29 年度 (目標)	設定の考え方
認証取組団体数	69 団体	100 団体	認証取得を団体として取り組む数

【取組方策】

(1) 環境にやさしい農業技術集及び事例集の作成と周知

- 試験場が開発した環境にやさしい農業技術や他県で開発された技術を取りまとめ、技術集を作成し配布
- 環境にやさしい農業（慣行に比べ化学肥料・化学合成農薬の使用量 50%減）を実践している農家の技術・事例を収集し、事例集を作成し配布

(2) 信州の環境にやさしい農産物認証制度の取組の面的な拡大

● 取組品目、実践組織の決定と削減目標の設定

- 農業改良普及センター、JAなど関係機関が連携し、取組品目、実践組織（JA部会など）を決定
- 削減目標（50%又は30%減）を設定
- 必要に応じ専門技術員及び試験場から助言

● 実践組織内の合意形成

- JAは、実践組織が取組を一体的に行えるよう部会員の合意を形成

● 取組技術の検討

- 削減目標を達成するために必要な取組技術について、農業改良普及センター、専門技術員、JAで検討し、施肥設計や防除暦などを作成
- 必要に応じ試験場から助言

● 実証ほの設置による技術の実証

- 農業改良普及センターにおいて削減目標に応じた実証ほを設置し、取組技術の検討結果に基づく技術の実証、病害虫の発生状況・収量・品質等を調査、生産コストを検証

● 現地検討会などの開催

- 農業改良普及センターにおいて、実証ほの現地検討会を開催し、実証した技術や病害虫の発生状況などを部会員と確認
- 病害虫が発生した場合の技術対策などについて検討を行い、部会員に技術指導を実施
- 次年度への改善点などについて検討するための成績検討会を開催
- 病害虫に関する部会員等の知識の向上を図るため、病害虫防除研究会などを開催

● 組織的な実践

- 実証ほの取組を参考にしつつ、部会員の取組を誘導
- 部会員が削減目標を達成できるよう、部会員自らが自園の病害虫発生状況などを把握するとともに、農業改良普及センターやJAが助言などを行うことにより支援

(3) 認証農産物の販売支援

● 販売実態調査

- JAグループと協働して認証農産物の販売実態について調査を行い、事例として取りまとめ、実践組織等に情報提供

● 販路の開拓

- JAグループ、量販店等と連携して、認証取得農産物の販路について検討
- 慣行栽培で生産された農産物との区分販売の検討と取引先の確保

● 販売支援

- ホームページなどにより消費者へのPRを強化
- 実需者への情報提供や商談会への参加支援などにより認証農産物の販売を促進

<5年間の行動計画>

項目	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年 (目標年)
技術集の作成	作成	完成			
事例収集・事例集の発行	事例収集（事例は毎年収集し、公表）				発行
実証ほの設置・実践	実証ほの設置			実践	
		実証ほの設置			実践
			実証ほの設置		
認証農産物の 販路開拓（JA）	販路の検討・開拓			安定取引	
認証農産物の 販売支援（県）	販売実態調査・ 支援策検討	ホームページ立上げ、商談会の開催・実需者への情報提供等			

【環境にやさしい農業の面的拡大】

